

子供と老人は参加厳禁のオトナのお祭りで、
私たち女性陣の前に現れ、
セックスを教えて欲しいと
懇願してきた男の子たち

今日はお祭りの日。

日も暮れて、大通りは賑やかな雰囲気を選び始めます。

でも・・・普通のお祭りとは違うんです。

この日のお祭りは、

“オトナのお祭り”

お祭りと言えば、そのほとんどはおじいさんやおばあさんから小さな子どもたちまで老若男女誰でも楽しめるものだと思いますが、この夜は私たちだけの楽しみの時間なのです。

大人の中でも参加者は若者に限定されます。

“若者が主役”

とかそういったことではなく、“若者しか参加できない”祭りなのです。

私は大学を卒業して社会人になったばかりの22歳の女です。

日が暮れ、一段と賑やかになって来たお祭り。

神輿を担いで街を練り歩くのは、みんな若い男性たちです。

皆、暑い夏に似合った格好。

ふんどしを穿いて、上半身は汗ばむ素肌にはっぴを羽織っただけ。

「ソーソーソーレ！！ソレソレソレッ！！」

一方、私たち女性の恰好も大胆です。

上は男性陣同様にはっぴ、そして下は膝上までしかない黒いスパッツ姿。

「ソレソレソレ！！ハイヤハイヤーー！」

その活気の凄さは、やはり若者だけと言うだけあって普通の夏祭りとは別物。皆、その若さによるエネルギーを前面に出し、我こそはとばかりに街を大騒ぎで踊り、自由気ままに楽しんでいます。

そして・・・。

夜が深まり、祭りはその本当の姿を現し始めます。

この祭りは若者限定の祭り・・・。

何度も繰り返してきましたが、その事実は夜が深まってから祭りを別の姿に変えていくのです。

若者たちの純粋に祭りを楽しむそのエネルギーの矛先は、別の場所へ向かい始めます。

もはや場の空気が異常なものになっていくと、男女とも大胆な姿に変わって

いきます。

冷めた人間も、病んだ人間も、そして子供も老人もいません。

頂点まで高揚した興奮状態の私たちは、流れのまま、勢いのまま、羽織っていたはっぴを脱ぎ捨て、裸になっていくのです。

“性”

そのエネルギーを持たない者は存在せず、深まる夜にひたすら高まっていくのは、どうしようもないほどの性的高揚感です。

皆・・・もうやりたい放題。

女性たちの中には、男性と同じようにふんどし姿になる者も現れ始めました。

淫靡な姿になって、恥じらいなど欠片もない状態で、皆なりたい姿になって祭りを楽しむのです。

「ソレソレソレッ！！ハイヤハイヤーーーッ！」

そして最後はもう皆・・・ほとんど・・・裸・・・。

お祭りは・・・。

酒池肉林の・・・大人の世界へと変わっていきます。

無法状態のお祭り。

この日は全てが許された日。

規制を敷くこともされず、開け放った街のたくさんの区画は若者たちだけのものです。

裸で淫らな格好になった参加者たちの中には、ついに乱交に発展する集団も現れ始めました。

一方、そんな私は同年代の女性仲間たちと一緒に女神輿を担いでいました。

私たちも大いに高揚しており、大通りへ出て裸の大乱交に参加する気満々でした。

そして通りかかったのは比較的小さな公園です。

そこには10人前後の男の子たちがいました。

見た目は、背の低い高いはありましたが、皆、○学校を卒業してそれほど経っていないくらいの年齢に見えました。

男の子たちは、この祭りの参加者の男性たちと同じように素肌にハッピを羽織って、下はまた引きを穿いています。

この日はこの区画も大人の祭りのために開けられているはずなのに……。
こんな子たちがここにいていいの？

■たちの存在に気が付いた私たちの気持ちは皆そういったものだったはず
です。

でも、それにしても……無邪気なはずの彼らの年齢にしては不思議なく
らい、神妙な面持ちでいるのです。

そして、神輿を公園の横に下ろし、話を聞こうと公園内に入った私たち女性
陣に……声をそろえて彼らは一斉にこうやってきたのです。

「僕たちに……セックスを教えてくださいっ！！」

そう言うと、男の子たちは一斉に来ていた服を脱ぎ始めたではありません
か！！！！

若者の性のエネルギーについていけない“子供”は決して参加出来ないはず
のこのお祭りの中で……。

こんなあどけない男の子たちがっ！！??

……………。

私たちは皆、口に手をあてて驚いています。

服を脱いで男の子たちはどんどん裸になっていきます。

突然の彼らの行動にあっけにとられていた私たちですが……。

……………。

服を脱ぎ捨て裸になった彼らの姿を見て、私たちは悟りました。

そう、この子たちは……大人になりたがっていたのです。

確かに彼らにはまだ〇さが残っています……だけど大人と■のギリギリ
の境目で……大人の世界を知りたいと、勇気を持って私たち大人の女性に
伝えてきてくれたのです。

一斉にまた引きをずり下ろし、剥き出しになった男の子たちの股間は……。

服装も同じなら中身も同じ。皆一様に、その股間には似通った大きく太いう
インナーがビーンッと上を向いて起き上がっていました。

この日の“オトナのお祭り”に……この子たちのヒクつくペニスは
“参加させてくれ！！”

と叫んでいるかのような様子でした。

剥けたばかりであることが分かる赤々とあどけないペニスの先っぽ、そして

反り返る裏筋、浮き出た血管。そのペニスの全てが、大人の仲間入りをさせて欲しいと訴えていたのです。

そして、彼らのペニスを見て……。

私はもう彼らを子供扱いなんて出来ない、そう思いました。

一緒にいた仲間たちも同じような気持ちだったはずです。

彼らはこのお祭りの、立派な一人前の参加者だ、そう思いました。

祭りの淫靡極まりない雰囲気と燃え盛りそうな熱い温度に、私たちの体はもう火照ってしまっています。

そう、一秒でも早くセックスがしたい！！

有り余るこの性欲を開放したい、そんな心持だったのです。

疼く女の本能。そこに男たちの体があるのなら、そこにペニスがあるのなら……例えそれがセックスを知らない童貞の少年であったとしても……もう誰かれ構わず食べてしまいたいような気分でした。

「いいわ。お姉さんたちがたっぷり教えてあげる！」

私たちは彼らにそう言ってあげました。

もはや、私たちの心が一致しているということはあえて言葉で確認せずとも互いに分かっていますので、相談や意見交換なんて……わざわざする必要もありません。

こんな異常な状況の中、私たちは……。

「一緒に気持ち良くなりましょ！！お姉さんたちもしたくてしかたないの。自由に、好き放題しましょ！！」

そう言って公園のど真ん中で、私たちは衣服を脱ぎ捨てました。

男の子たちも裸になって……こんな野外で、まるで皆野生動物のようです。

もうたまらない。早くエッチが……セックスがしたい！！

早くこの子たちのチンポが欲しい！！

私たちの包み隠さない共通の気持ちです。

野外は夜でも蒸し暑く、私たちの肌に汗がにじみます。

心も体も、そして自分たちを包むこの空間も……全てが熱い。

全てを開放したい！！

年の差の大乱交は始まりました。

ひとまず私たちは仁王立ちになってペニスを剥き出しにした男の子たちの前に膝まづいて一人一つずつペニスを啜えました。

まるで図ったように偶然に、男の子たちと私たちの人数は同じだったのです。はじめからこうなる運命だったかのようです。

男の子たちの大きくなったペニスは、暗闇の中でも、公園の周囲に設けられた電灯の明かりによってその形、大きさがはっきりと分かりました。

まだ剥けたての若いおちんちん。私が舐めていた子のペニスは、勃起する前はまだ皮かむりなののでしょうか、ちょっと臭いもあったりして・・・私は懸命にお口で綺麗にしてあげました。

ペロペロペロ・・・ズチュジュブブブ・・・

どこをどう切り取って見たって異常な痴態。普通ではありません。

一人残らず裸になって、少年と年上の私たちお姉さんが・・・フェラチオ。一斉に大きくなった若い勃起チンチンをベロンベロンと舐めて、ピンク色のカリ首を唇でクチュクチュと含んで・・・。

そして共通しているのは、皆限りなく最高潮の性的至福に包まれているということ。

究極の幸せを感じながら、皆・・・一斉にセックスをしているのです。

みんな舐めるその方法はバラバラです。

裏筋に舌を通わせたり、喉元までペニスを含んでズボズボと飲み込むようなフェラをしたり。

私たち以上に衝撃を受けていたのは男の子たち。

当たり前です。“教えて”と言ってきた時点で、彼らは童貞なのですから。

生まれて初めて知るその異次元の快樂に、彼らの瞳はもう遠いどこかへ飛んで行ってしまったような、そんな風に見えました。

今度は男の子たちの番です。

童貞の癖にホントに生意気な彼らは、裸の私たちに後ろを向くように要求してきました。

私たちは立って足を肩幅よりほんの少し多く広げ、背中を前傾させてお尻を突き出すようにしました。

もちろん生まれたままの姿で、です。

男の子たちはしゃがんで私たちのお尻に顔をうずめてきました。

————体験版はここまでです————